

通告7番目、6番、尾和正之議員、発言席から一問一答方式で質問願います。

尾和正之議員。

○尾和議員 皆様、お疲れさまでございます。6番、尾和正之でございます。

冒頭、第一声としまして申し上げさせていただきます。

コロナ禍の厳しい状況下の中、その対策に携わる全ての皆様に心から感謝と敬意を表せていただきたいと思います。

それでは、議長の許可を得ましたので、子供たちの学びから職業選択のサポートについて、そして消防関連について、この二つの点で一問一答方式で、通告に従い一般質問を行います。

まず初めに、子供たちの学びから職業選択のサポートについて、3点お伺いします。

最初に日本中の方々が熱狂したこの7月、8月、9月前回の東京オリンピックから約五十数年ぶりにコロナ禍の中、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。開催期間を通じて何人ものヒロイン・ヒーローが誕生し、選手たちの日々の鍛錬と精神力が子供たちや私たちに感動と興奮をもたらしてくれました。この五輪は子供たちや私たちにとって、将来の糧になる無形の資産であり、そのことは事実であります。

その一方で、新型コロナウイルスの感染が拡大し、大会関係者の感染が相次ぐなど、コロナの影響が否めないこと、また安心安全とは言えない大会であり、開催までのプロセスで大会関係者の問題が起こったことは、残念でなりません。私たちはもう一度五輪憲章である人間の尊厳を重視する平和な社会を目標に掲げ、人種や性別、性的指向や宗教などによる差別を禁じていることを再認識する意義を学ばなければならないと思いました。

この五輪を経て、現在の社会において子供たちが学ぶ環境は多岐にわたり、あらゆる分野で将来につなぐ選択肢があると考えております。オリンピックのスポーツもその一つであります。東京オリンピック2020では、33の競技が実施されました。野球、ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン、計5競技が追加種目として実施され、そのスケートボードのヒロインに岩出市出身で初めての金メダリストが誕生したことは、皆様もご存じのことと思います。それを身近で体験をできることが子供たちの憧れになり、将来の夢として学べる環境になることは、間違いありません。岩出市にとって笑顔あふれるまちづくり、住んでよかったと思えるまちづくり、につながる将来を見据えた持続可能な行財政運営に

豊かさをもたらすことと考えています。

また、今回のオリンピックのレガシーで初心者向けのスケートボード場を残す試みは、岩出市民にとって素晴らしいことですが、単に施設を残すのではなく、メダリストからのアドバイスや他の自治体を参考にすることは、すごく大切だと思っていますので、今後の市政の対応に注視していきたいと思っています。

今の時代、子供たちの学びは、勉学、スポーツ、芸術、文化、最近ではeスポーツ等、たくさんの選択肢があると思います。それらをプッシュ型でサポートすることができれば、ふるさと岩出でよかったと思ってもらえる一つではないでしょうか。今回サポートができる例として、二、三年前から東京オリンピックの期待の星とネット記事で紹介があるように、このような情報にアンテナを高く持ち、何ができるかと検討、模索することも大切だと考えております。

また、アンケートや目安箱といった情報提供からのサポートを検討、検証する方法もあると思います。今回また今後もこの大切なサポート体制をきめ細やかに継続し、内容を定義していきたいと思っています。

それでは質問ですが、1点目としまして、今の岩出市の現状を確認するために岩出市のサポート体制及び、現状の高校、大学への進学率についてお答えください。

2点目としまして、スポーツ、芸術・文化、eスポーツ、各分野の対応、支援施策などをどのように考えているのか。

3点目としまして、岩出市の今後の方針は、今後の取組をお答えください。

○福山議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○湯川教育長 尾和議員の子供たちの学びから職業選択のサポートについて、一括してお答えいたします

まず、1点目ですが、職業選択のサポートという面では、岩出市立中学校では生徒に望ましい勤労観と職業観を身につけることを目的にキャリア教育の一環として、中学2年生を対象として3日間の職場体験学習を実施しております。また、岩出市在住の経済的な理由により、高校、大学に進学が困難であるが、勉学に意欲を持った優れた学生に対して、学資金の一部給貸与を行う公益財団法人上田徳一・千代子育英奨学会の事務局を置いております。

次に、高等学校への進学率ですが、岩出市立中学校を卒業した生徒の進学率でお答えいたしますと、令和元年度が99.6%、令和2年度99.0%、令和3年度が99.1%となっており、いずれの年度も進路未決定者はおりません。なお、大学への進学率

につきましても把握はできません。

次に、2点目の各分野の対応、支援施策についてであります。教育委員会が実施する事業としましては、スポーツ少年団や体育協会、青少年の健全育成団体等に補助金を交付するとともに、文化芸術に親しむ機会の創出として、公民館教室や各種講座を実施しておりますが、その趣旨は専門家やプロ化を促進するものではなく、スポーツ、文化・芸術等において、広くきっかけづくりを行い、自分に合ったものを選別する機会であったり、今後の可能性を探っていただくような、あくまでも生涯学習という枠の中での事業でございます。

eスポーツについては、ここ数年のうちに若者の間で、一気に盛り上がりを見せている新しいスポーツ分野であることは認識しておりますが、本市における競技人口も把握できない状況であり、また、まだまだ個人の趣味の域を脱するまでには至っていないと考えておりますので、他の自治体の対応等も調査しながら研究してまいります。

3点目の今後の方針と取組についてでございますが、第3次岩出市長期総合計画並びに岩出市教育振興基本計画に基づき、それぞれの分野の振興・充実に努めてまいります。

○福山議長 再質問を許します。

尾和正之議員。

○尾和議員 それでは、再質問を行います。

この子供たちの学びから職業選択のサポーター、私が公約とした五つの想いに掲げた一つであります。その中に新しい選択肢として、ここ数年で注目されているeスポーツの拡充とサポートを訴えております。この分野に関しては2018年に国が策定した未来投資戦略2018で、eスポーツは日本の魅力を生かす新たな成長領域として注目し、環境整備に取り組むとしており、他県では国体の文化プログラムに選ばれたり、他の県ではeスポーツフェスタなどを行うなど、様々な取組があります。また、民間企業と協力しeスポーツ体験など、子供たちや若者たちに学びとして動いております。

最後にお答えいただきたいと思うんですが、これは一つの例ですが、今後新しい分野のサポートは計画されているのでしょうか。お答えいただきたいと思います。

○福山議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○湯川教育長 再質問にお答えいたします。

先ほどもお答えしましたが、教育委員会で取り組んでいる事業、これはあくまでも生涯学習という枠の中でございます。生涯学習というのは学校教育も含めて、家庭教育や社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、趣味、いろんな場や機会において行う学習ということでございます。で、ご存じかと思えますけども、岩出市のスポーツ少年団に過去に在籍しており、その後プロになった野球選手こういう方もおります。しかし、それは本人の意思と本人の努力のたまものであると、このように思っておりますので、生涯学習の枠においてプロ化に向けた支援というのは考えておりません。

それから、eスポーツですけども、これは障害の有無とか、年齢に関係なく楽しめるものということで、和歌山県内でも幾つかの団体さん、活躍している団体さんがあるように聞いておりますが、先ほども申し上げましたが、県内、市内での競技人口というのは不明でございます。また、一方ではゲームの依存症とか、いろんなそういう懸念される弊害もあるということで、ほかの自治体の動向も見てみましたけども、他市でそういう活動、教育委員会の事業の中でやっているところはございませんでした。そういうことから、今後慎重に研究していく必要があると考えてございます。

○福山議長 再々質問を許します。

(な し)

○福山議長 これで、尾和正之議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問を願います。

尾和正之議員。

○尾和議員 それでは、2番目の消防関連について4点ご質問します。

現在も消防団員の担い手不足は、全国的に問題視されています。岩出市も同様の中、地域住民の負担が大きくなっていることは事実であります。このことは様々な課題を解消するため、平成25年12月に消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が成立されていますが、なぜ改善されてこなかったのでしょうか。全国でもこれまで多くの議員が、この問題に対し質問を行っていますが、多くの答弁が同じ内容となっていることでもあります。その内容は、待遇の改善、公務員の消防団への加入促進に取り組めます。地元大学と連携し学生の消防団加入促進に取り組めます。女性、農協職員の消防団への入団促進、機能別団員、機能別分団制度の活用などになっております。

今後少子化の影響で、担い手不足になるのは明確であります。この問題は喫緊の

課題であります。これまで実施した岩出市の成果と結果を集約し、今後の岩出市にとって必要不可欠な分析材料とし、岩出市に保存する過程において、今後の岩出市の独自の方針と施策に期待していきます。

今回の質問は担い手不足から、地元自治会団員がいないことで、地域住民が消防関連の部品管理に関して大きな負担になっているからであります。そこで質問させていただきます。

1点目は、岩出市では老朽化が著しいホース格納箱の現状把握はなされているのか。このホース格納箱の清掃及び管理はどこが対応するのか、お答えください。

2点目は、消防団員の欠員や補充など現状の答弁を求めたいと思います。また、選出基準についてもお答えください。

3点目は、各屯所にある簡易トイレの有無に基準はあるのか、自治会の方が屯所に行った際、その近くに簡易トイレがなく、また家に帰りトイレに関して行ったそうです。今後このようなことから要望による設置予定はあるのか、お答えください。

4点目は、今現状消防団員の報酬は直接払いが原則と思いますが、どのように支払われているのか、答弁願います。

○福山議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○中場総務部長 尾和議員の2番目のご質問、消防関連についての1点目、ホース格納箱の現状把握、清掃及び管理についてです。

ホース格納箱については、自治会等をはじめとする、地域や消防団により維持管理を行っていただいております。

2点目の消防団員の欠員や補充については、欠員が生じた場合、消防団各部隊において適任者を推薦し、市長の承認を得て団長が任命しております。団員数の状況としましては、平成31年333人、令和2年332人、令和3年332人となっております。選出基準については、消防団条例に、本市に居住または勤務する満18歳以上で志操堅固、身体強健であって、団員たるに足る者と規定しております。

3点目の各屯所における簡易トイレについては、設置基準はございません。設置要望があった場合は補助金の交付を実施しております。

4点目の消防団員の報酬については、団員個人に対し口座振込等により支給してございます。

○福山議長 再質問を許します。

尾和正之議員。

○尾和議員 ご答弁ありがとうございます。

最後に、岩出市ではどのように担い手不足の解消と地域住民の負担を解消していくのか、岩出市独自の対策をお聞きかせください。

○福山議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務課長。

○木村総務課長 尾和議員の再質問にお答えいたします。

市独自の担い手不足解消と地域住民の負担軽減ということでございます。まず、市独自になるかどうかなのですが、今回の議会において、報酬の増額という議案を上げさせていただいて、ご承認いただきましたことありがとうございます。これが一つになるかと思えます。これにつきましては国からの通知により、報酬を適正化ということが団員の確保にもつながるということで、これを通知としてきてございます。

また、地域住民の負担ということですが、これにつきましては、先ほど総務部長がお答えさせていただいたように、格納箱等々につきましては、地域の自治会の方等にも管理いただいているところがございます。その軽減としましては、なくなった物、または古くなって老朽化した物、これについては支給させていただいてございますので、その部分で経済的負担というのはないかと考えてございます。

あと、今後また女性団員、先ほども質問にありましたように、女性団員これについても今後増やしていきたいと考えてございます。現在は女性団員は2名の方がいらっしゃいますので、今後も増加につなげていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○福山議長 再々質問を許します。

(なし)

○福山議長 これで、尾和正之議員の2番目の質問を終わります。

以上で、尾和正之議員の一般質問を終わります。